

人生ハンド仏句

第2号

H. 14. 5. 1

山 蓮 寺
真 成 編 集

最初は、へんなお坊さんと思っていた人々も、毎日しつこくやられるうちに

「馬鹿にするな、いいかげんにしろ」と怒りだし、石を投げたり、棒で殴りかかったりしました。」それでもこのお坊さんは、逃げ足速く石の届かないところへ行き、遠くから彼らを拝み続けました。そのうちに人々は、

「こんな俺たちをあのお坊さんは拝んでくれる。何だかい気分になってきた。拝まれるというのはこんなに気持ちのいいものか。ならば自分も誰かを拝もう」と、お互い拝み合うようになり、争いに満ちた町が一転して助け合う町に生まれ変わりました。

お経も読まず、お説教もしないで、ただ合掌礼拝を繰り返した不軽菩薩。この菩薩こそ他ならぬ久遠のご本仏であるお釈迦様の、前世のご修行時代の仮のお姿だったのです。

日蓮聖人は『崇峻天皇御書』の中で、「法華経の修行の肝心是不軽品にて候なり」とお示しになっていきます。それは何故でしょう。実は、手を合わせる心こそ信仰の原点で、お題目の心そのものだからです。

お餅やおむすびを丸めるには、必ず両手を合わせなければ丸くは出来ません。物だつて手を合わせることに丸く出来るのなら、私たちの心だつて……

そうです、必ず出来ます。手を合わせれば、憎む心がとけていき、離れた心も一つになり、敬う心も湧いて来ます。

「おはようございまーす。」の挨拶も、手を合わせて拝んでいるのです。だからココロにいいのです。

「あいさつは、ココロにいい」

真成寺住職 谷川 寛俊

早起きは、カラダにいい。

走るのも、カラダにいい。

「おはようございまーす」

のあいさつは、ココロにいい。

新聞の広告欄にのっていた文です。さすが、プロ。実にリズムカルに歯切れよく、大切なことを訴えています。

法華経の『常不軽菩薩品第二十』に、次のようなことがとかれています。昔、一人のお坊さんがいました。人呼んで

「常不軽。」(常に軽んじない)

このお坊さんは朝起きるとすぐに外へ飛び出し、道で会う人々に向かって深々と頭を下げ、合掌し、

「私はあなたを深く尊敬いたします。決して軽蔑いたしません。何故ならば、あなたは菩薩の道を行じたならば、必ず仏になるお方だからです」と拝みました。

相手が男であれ女であれ、金持ちであれ貧乏人であれ、老人であれ若者であれ、貴族であれ商人であれ、そんなことは一切お構いなしです。